



第44回 全国豊かな海づくり大会

～美し国みえ大会～

基本計画



第44回全国豊かな海づくり大会

三重県実行委員会

目次

I. 全体概要

1. 大会概要	1
2. 開催意義.....	2
3. 基本理念.....	4
4. 基本方針.....	4

II. 大会計画

1. 全体計画	5
2. 式典行事.....	8
3. 海上歓迎・放流行事	10
4. 御放流魚種・お手渡し魚種	12
5. 関連行事.....	13
6. その他の行事.....	14
7. 大会運営計画	16
8. 荒天時等計画	17

III. 気運醸成・情報発信計画

1. 気運醸成に向けた取組	18
2. 情報発信の取組	20

IV. 実施スケジュール

1. 大会開催に向けた全体スケジュール	21
---------------------------	----

I. 全体概要

1. 大会概要

(1) 名称

第44回全国豊かな海づくり大会 ～美し国みえ大会～

(2) 主催

豊かな海づくり大会推進委員会

第44回全国豊かな海づくり大会三重県実行委員会

(3) 開催時期

令和7年秋季(土曜日・日曜日の2日間)

(4) 開催場所

式典行事 志摩市阿児アリーナ(志摩市)

海上歓迎・放流行事 宿田曾漁港 (南伊勢町)

関連行事 開催市町ほか、県内複数場所(検討中)

(5) 行事内容(予定)

① 式典行事

豊かな海づくり活動功績団体表彰、最優秀作文の発表、漁業者メッセージ、大会決議、大会旗引継などを行います。



第4回三重県大会(昭和59年)

② 海上歓迎・放流行事

漁船などによる海上歓迎パレード、種苗(稚魚)放流を行います。

③ 歓迎レセプション

本県農林水産物の食材を豊富に使用したおもてなしを行います。

④ その他

絵画・習字等のコンクール優秀作品の展示、企画展示・特産品販売などを行います。

(6) 大会テーマ

「受け継ごう 命あふれる 清い海」

(7) 大会応援マスコット・大会コスチュームデザイン

【大会応援マスコット】



とこまる

【大会コスチュームデザイン】



前面
1

背面

I. 全体概要

2. 開催意義

(1) 三重県の特徴

日本のほぼ中央の太平洋側に位置する三重県は、紀伊半島東部に沿って南北約170km、東西約80kmと南北に細長く、伊勢平野をはじめとする平野部、鈴鹿山脈や青山高原などの高地、伊賀盆地などの低地と変化に富む地形を呈しています。県北部の東側には内湾の伊勢湾が広がり、西側には鈴鹿山脈、布引山地が連なっています。県南部の東側はリアス海岸を有する志摩半島から黒潮の影響を強く受ける熊野灘へと続き、西側には紀伊山地が連なるなど、多様な自然環境を有します。当地は、温暖な気候も相まって古来から海・山の幸に恵まれ、日本書記において、美し国(うましくに)と称されています。気候や風土、文化や歴史などから、北勢、中南勢、伊賀、伊勢志摩および東紀州の5つのエリアに区分されており、地域ごとに特色ある伝統産業や農林水産業が営まれています。

(2) 三重県の水産業

三重県は、静穏で遠浅の砂浜が広がる伊勢湾地域、陸水と外洋水が混じりあう伊勢湾口およびリアス海岸を有する鳥羽・志摩地域、黒潮の影響を強く受ける熊野灘地域と、特性の異なる海域を有し、様々な漁業が営まれています。

伊勢湾地域では、採貝、底びき網、船びき網などの漁船漁業で、アサリやハマグリ、カレイやエビ類、イワシ類、サワラ等が漁獲されるほか、養殖業では、黒ノリや青ノリ、ワカメが養殖されています。

鳥羽・志摩地域では、一本釣りやはえ縄、刺し網などの漁船漁業で、カツオやトラフグ、イセエビ等が漁獲されるほか、伝統的な海女漁業が営まれ、アワビやサザエ等が採捕されています。また、英虞湾をはじめとする周辺の内湾では、本県が技術発祥の地である真珠をはじめカキや青ノリ等の養殖が盛んに行われています。

熊野灘地域では、まき網、定置網、棒受網などの漁船漁業によりサバ類などの多獲性浮魚類やブリ等が漁獲され、静穏な浦々の湾内では、マダイやマハタ等の魚類や青ノリ養殖が営まれています。

このように本県では、多種多様な水産物が漁獲・生産されており、漁業総生産量は全国第8位、総産出額では全国第10位となっています。県内に水揚げされた水産物は、県内外に出荷されています。また、水産加工業を含む本県の水産業は、水産物の安定供給はもとより、観光業等の幅広い産業と密接に連携した地域経済の発展、漁村文化や漁村コミュニティの形成等にも大きく貢献しています。

県では、このような本県の水産業が将来にわたり持続的に行えるよう、AI・ICT等のスマート技術を活用した養殖業の展開や科学的知見を踏まえた資源管理、効果的な栽培漁業を推進するとともに、漁場の改善や整備などにも取り組んでいます。

I. 全体概要

また、県内河川では、アユやアマゴを対象とした内水面漁業が行われており、生態系保全や河川環境の維持、自然の大切さを学べる交流の場の提供など将来にわたり内水面における多面的機能が発揮されるための取組を進めています。

(3) 開催意義

三重県では、昭和59年10月に志摩郡浜島町(現:志摩市浜島町)において、「第4回全国豊かな海づくり大会」を開催しました。皇太子同妃両殿下をお迎えして開催したこの大会を契機に、県内では、漁業関係者が一丸となって栽培漁業の推進・定着、種苗生産・放流技術の向上、種苗生産施設の整備などに取り組んできました。また、稚魚育成のための漁場整備や漁業者による資源管理の実践など、豊かな海づくりに向けた取組も推進してきました。このような中、本県の漁業者が実施している「愛知県、静岡県、岐阜県の漁業者や国などの研究機関と連携して伊勢・三河湾系群のトラフグを対象に資源管理や種苗放流を広域で実践する取組」や、「アラム場再生に向けたアラム植栽方法や食害防止ネットの設置等の環境再生・修復技術を確立させ、農林水産祭天皇杯を受賞した取組」は、豊かな海づくりに向けた活動として高い評価を得ています。

しかし、近年は、伊勢湾における水質規制等により水質改善がみられる一方、窒素やリン等の栄養塩類の不足による黒ノリ養殖の色落ちが問題となっています。また、志摩半島以南の熊野灘では、気候変動や観測史上最長となっている黒潮大蛇行等に伴う海水温上昇により藻場の減少が進んでおり、アワビやイセエビ等の漁獲に影響を及ぼすなど、漁場生産力が低下しています。

これらの環境変化により低下した漁場生産力を回復させ、豊かな海を再生するため、本県では、令和2年10月に策定した「三重県水産業及び漁村の振興に関する基本計画」に基づき、気候変動に対応した新たな養殖品種の開発や養殖水産物のブランド化の取組、伊勢湾における栄養塩類不足の改善に向けた取組を開始しています。また、漁業関係者による森づくり、海女等が主体となった藻場再生やアワビ資源増殖など、漁業者が主体となった取組を推進するとともに、科学的知見を踏まえた新たな資源管理や効果的な栽培漁業、藻場・干潟造成にも取り組んでいます。

このような中、「全国豊かな海づくり大会」を再び三重県で開催することは、豊かな海の再生に取り組む本県の姿を全国に発信するとともに、水産資源を守り育てる取組をさらに推進する絶好の機会となります。また、大会や関連イベントを通じて、三重県の豊かな海や河川といった自然環境の保全に対する県民の意識向上を図ることができます。さらに、多彩な県産農林水産物の魅力や歴史・文化を全国に発信することで、県内外からの観光客誘致を促進できます。

I. 全体概要

3. 基本理念

三重県の多彩な農林水産物や自然、歴史、文化等、本県が有する魅力を全国に広く発信することで、地域の活性化を図るとともに、大会開催を通じ、水産資源の保護・管理、海や河川などの水域環境保全、自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く周知し、水産業の持続的な発展と豊かな海や河川が次世代へ引き継がれていくことをめざします。

4. 基本方針

(1) 持続的な水産業の次世代への継承

海域ごとに特色ある豊かな漁場に恵まれ、古くから伝統的な海女漁業や三重県が技術発祥の地である真珠養殖業など、多種多様な漁業が営まれている本県において、漁業が将来にわたって継続的に営まれ、次の世代に継承されていく大会とします。

(2) 豊かな海や河川の恵みを楽しむための水域環境の保全

伊勢湾の栄養塩類不足による黒ノリの色落ちや気候変動に伴う海水温上昇による藻場の減少など、私たちの生活が自然環境に与える影響への認識を県民や国民が深め、豊かな海や河川を次代に引き継いでいく大会にします。

(3) 多彩な魅力あふれる「美し国みえ」の発信

いにしえより美し国として知られ、現在も「伊勢まだい」や「桑名のはまぐり」、「松阪牛」など海・山の食材に恵まれ、地域ごとに特色ある農林水産物や自然、文化、歴史を全国に発信し、本県が有する多彩な魅力を存分に感じられる大会とします。



伊勢まだい



桑名のはまぐり

II. 大会計画

1. 全体計画

(1) 計画概要

■基本的な考え方

- ・「美し国」に象徴される「豊かな自然」や「多様な交流」を拠り所に発展してきた本県水産業の歴史を再認識し、共有、発信できる大会とします。
- ・漁業が将来にわたって継続的に営まれるとともに、漁業者をはじめとする様々な分野の次世代を担う人材が輝いていける大会とします。
- ・南北に1,000kmを超える海岸線を有する本県の特徴を生かして、多彩な食材や文化等によるおもてなしで県内外からの来場者をお迎えします。

■行事構成

○式典行事【志摩市阿児アリーナ(志摩市)】

資源管理や漁場保全等の豊かな海づくりのために功績のあった団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者のメッセージや大会決議等を行います。

○海上歓迎・放流行事【宿田曾漁港(南伊勢町)】

漁業関係者の協力を得て、漁船等による海上歓迎パレードを行うとともに、水産業が次世代に継承されるよう本県の栽培漁業を代表する稚魚の放流を行います。

○関連行事【開催市町ほか、県内数ヶ所で開催予定】

水産業や豊かな海づくりに関する企画展示、ステージイベント、体験ブース、物産販売、飲食エリアなどを設置し、水産業や環境保全への理解醸成や関係人口の拡大を図ります。



式典行事



放流行事

第4回三重県大会(昭和59年)

II. 大会計画

(2)大会会場

■基本的な考え方

- ・設備、景観等を最大限に活用しながら、すべての来場者に安全・安心で、快適な空間と豊かな海を実感していただけるにふさわしい施設や港湾を大会会場に位置付けます。

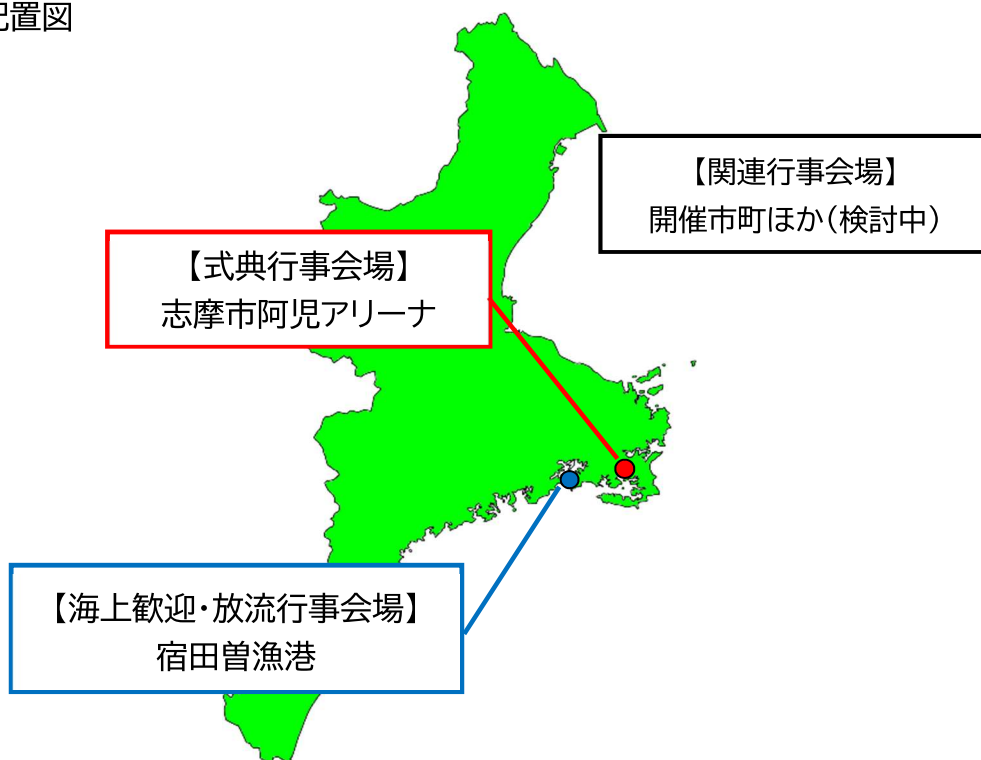
○式典行事：志摩市阿児アリーナ(志摩市)

志摩市阿児アリーナは、伊勢志摩国立公園として風光明媚な英虞湾を有する志摩市の中心に位置し、市民のつどい「阿児ふるさと公園」内にあります。交通アクセスも良く、二つのホールをはじめ複数の会議室などを有する複合施設の機能を最大限に生かした会場配置を行うことで、本県水産業の魅力をはじめ豊かな海を全国に効果的に発信できる式典とします。

○海上歓迎・放流行事：宿田曾漁港(南伊勢町)

本県沿海のほぼ中央部の南伊勢町にある県営漁港で、五ヶ所湾の湾口部に位置します。熊野灘に面したリアス式海岸の海・山・空が一体となった豊かな自然を感じていただけるロケーションを生かし、つくり育てる漁業の理解増進と豊かな三重の海を実感していただける海上歓迎・放流行事とします。

■会場配置図



II. 大会計画

(3)行事計画

■基本的な考え方

- ・各行事のタイムスケジュールに従い、招待者及び来場者の移動がスムーズに行えるよう、安全面、機能面を十分配慮した計画とします。
- ・式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場並びに関連行事会場において、一体感のある行事とするため、大型映像装置を活用した映像中継等を行います。

■行事構成

会場		式典行事 (志摩市阿児アリーナ)	海上歓迎・ 放流行事 (宿田曾漁港)	関連行事 (県内複数個所)	作品御覧 ・歓迎レセプション (会場検討中)
第1日目	9:30	総合リハーサル	総合リハーサル		
	17:00				絵画等作品御覧 歓迎レセプション
第2日目	9:30	開場 プロローグ		関連行事 企画展示 ステージイベント 物産販売など	
	12:00	式典行事		式典行事中継	
	17:00		海上歓迎・ 放流行事	海上歓迎・ 放流行事中継	

II. 大会計画

2. 式典行事

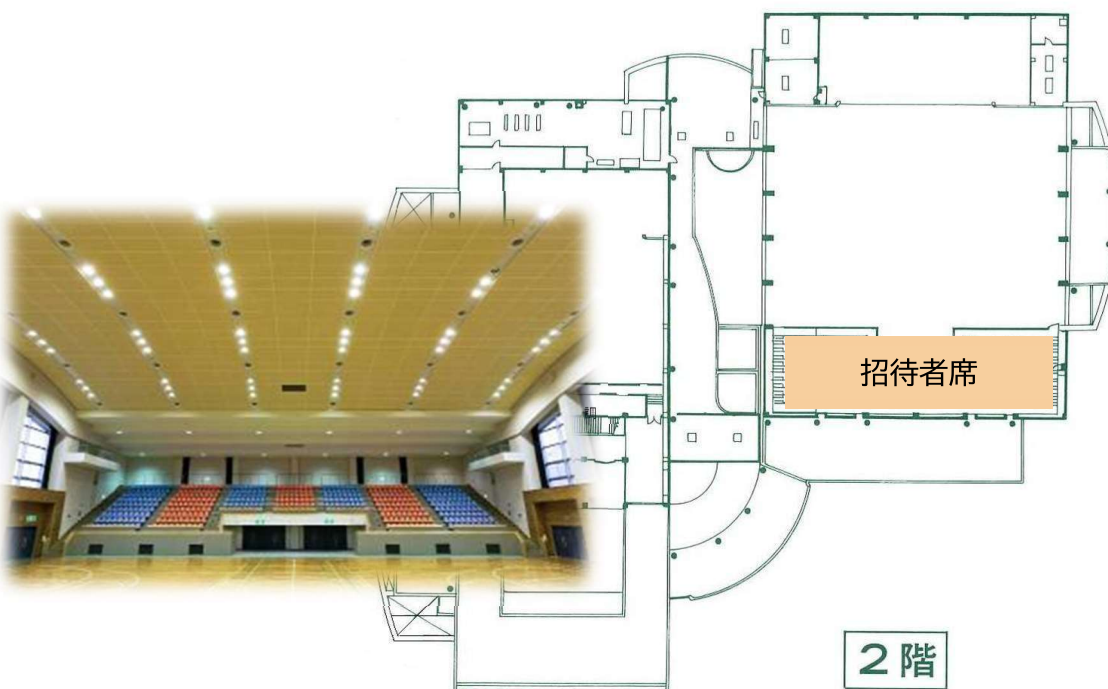
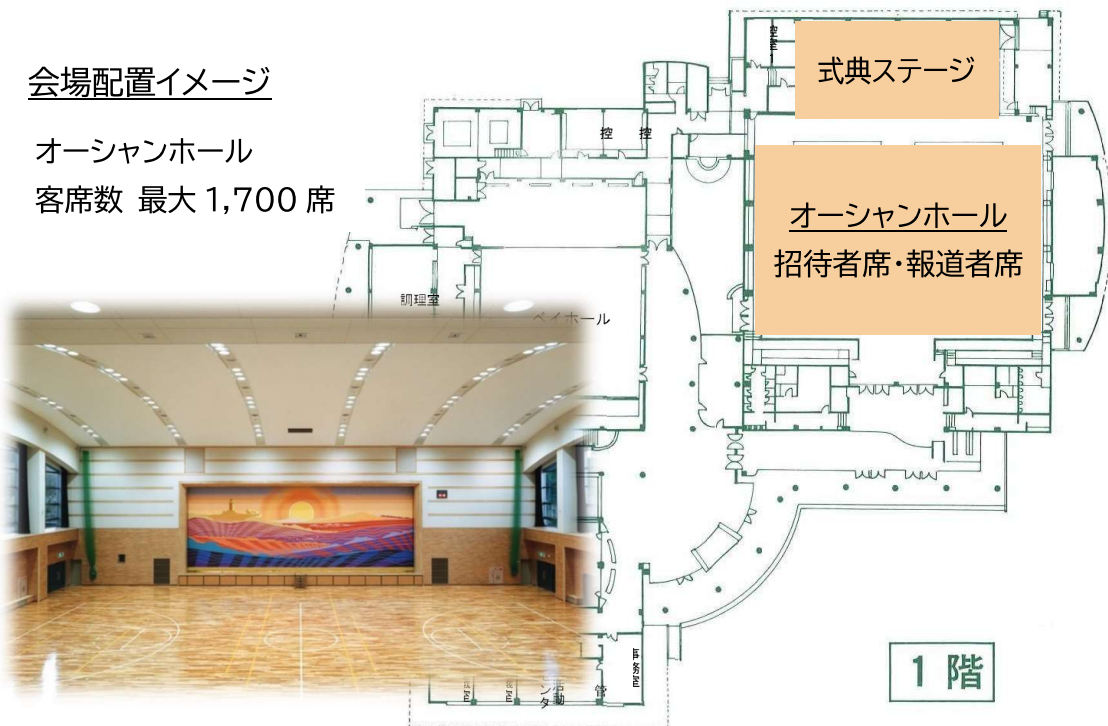
(1) 会場配置

■ 基本的な考え方

本県水産業の魅力や環境保全の大切さを全国に発信できるように志摩市阿児アリーナの施設形状、空間、設備を最大限活用した会場配置を行います(招待者1,000人程度を想定)。

会場配置イメージ

オーシャンホール
客席数 最大 1,700 席



II. 大会計画

(2)行事計画

■基本的な考え方

厳粛で品位のある進行を基本として、「美し国」に象徴される「豊かな自然」や「多様な交流」を拠り所に発展してきた本県水産業の歴史や豊かな海の重要性を全国に発信できる内容とします。

■ 日 時 令和7年秋季の日曜日

■ 場 所 志摩市阿児アリーナ「オーシャンホール」

■ 演出計画

進 行	内容・出演者等
プロローグ	三重県紹介映像、伝統芸能 等(※)
御臨席	御先導：三重県知事
大会旗入場	旗 手：県内高等学校生徒 等(※) 先 導：鼓笛隊 等(※)
開会のことば	三重県漁業協同組合連合会 代表理事会長
国歌斉唱	吹奏楽 等
主催者あいさつ	全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長） 三重県実行委員会会長（三重県知事）
歓迎のことば	開催地代表市町長
おことば	
表彰(功績団体等)	全国豊かな海づくり大会会長賞、農林水産大臣賞、 環境大臣賞、水産庁長官賞、三重県知事賞
最優秀作文の発表	全国豊かな海づくり大会会長賞の受賞者代表
稚魚等のお手渡し	お受取：水産関係者 介添え：県内高等学校生徒 等(※)
海づくりメッセージ	漁業後継者等によるメッセージ
大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長 (全国漁業協同組合連合会代表理事会長)
大会旗引継	三重県知事から大阪府知事(次期開催県知事)へ引継
次期開催県あいさつ	大阪府知事
閉会のことば	三重県議会議長
御退席	御先導：三重県知事
エピローグ	豊かな海への想いを音楽やパフォーマンスで表現(※)

※演出計画は、先催県の例を参考に記載したものであり、関係機関等と協議の上、調整・決定します。

II. 大会計画

3. 海上歓迎・放流行事

(1) 会場配置

■ 基本的な考え方

- ・熊野灘に面する五ヶ所湾口に位置する宿田曾漁港において、リアス海岸が続く自然の美しさや海の豊かさを実感できる会場配置とします。
- ・海上歓迎・放流行事等を通じて、つくり育てる漁業の理解増進を図るとともに、本県水産業の魅力を実感していただける会場づくりを行います。(招待者500人程度を想定)。



■ 御放流所

- ・御放流所に使用する木材は、可能な限り県産材を用いることとし、森と海の繋がりを全国に発信できる大会とします。



過去大会の様子

II. 大会計画

(2)行事計画

■基本的な考え方

- ・漁船等による海上パレードと本県の代表的な漁法の紹介等で招待者を歓迎するとともに、水産業が次世代に継承されるよう本県の栽培漁業を代表する稚魚の放流を行います。
- ・各行事の実施にあたっては、漁業者をはじめとする様々な分野の次世代を担う人材が活躍できる演出を行います。

■ 日 時 令和7年秋季の日曜日

■ 場 所 宿田曾漁港(南伊勢町)

■ 演出計画

進 行	内容・出演者等
歓迎演奏	吹奏楽 等(※)
進行概要説明	司会者
会場御着～御放流所へ御移動	御先導：三重県知事
海上歓迎	漁船等による海上歓迎パレードと漁法紹介
第1回放流	介添え：県内高等学校生徒 等(※)
第2回放流	介添え：県内高等学校生徒 等(※)
御放流所から移動～会場御発	御先導：三重県知事

※演出計画は、先催県の例を参考に記載したものであり、関係機関等と協議の上、調整・決定します。





海上歓迎・放流行事
第4回三重県大会(昭和59年)

II. 大会計画

4. 御放流魚種・お手渡し魚種

(1) 御放流魚種

<p>【イセエビ】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥羽市以南の岩礁域に生息し、主に刺網漁で漁獲される。 ・全国第2位の漁獲量(令和3年)を誇るなど、県を代表する水産物で、県や市の魚に指定されている。
<p>【マダイ】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾から熊野灘にかけて沿岸域に広く分布し、本県では、主に定置網や一本釣り、小型底びき網、まき網、バッチ網・船びき網などで、年間約200トンが漁獲される。 ・栽培漁業対象種として、本県では昭和63年以降種苗放流が実施され、ピーク時には170万尾が放流されている。

(2) お手渡し魚種 (式典会場で手渡され後日放流)

<p>【マハタ】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幻の高級魚」とも呼ばれ、県南部地域で養殖が行われている。 ・種苗生産量は全国シェアの8割(令和3年)を占めている。
<p>【アマゴ】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内河川の上流部に広く分布している。 ・「溪流の女王」とも呼ばれ、内水面の重要魚種となっており、種苗放流が行われている。
<p>【アコヤガイ】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・英虞湾を中心に養殖業が発達し、発祥の地として名声を高めてきた。 ・伊勢志摩地域では、養殖から加工・販売に至る裾野の広い産業が発達している。
<p>【くろのり・あおのり】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・くろのりは、伊勢湾各地において養殖が行われており、伊勢湾を代表する漁業の一つとなっている。 ・あおのりは、県内各地の沿岸域で養殖が行われ、生産量は全国一となっている。

II. 大会計画

5. 関連行事

(1) 会場配置

■基本的な考え方

大会を県全体で盛り上げるため、大会当日に県内市町等と連携して複数箇所での水産関連イベントを開催します。関連イベントでは、大型モニターを活用した式典行事等の映像配信を実施するとともに、放流が可能な会場においては、海上歓迎・放流行事会場との同時放流を実施するなど、一体感を醸成できる運営を行います。

(2) 行事計画

■企画展示エリア

漁業者をはじめとする様々な分野の次世代を担う人材が本県の水産業の魅力や豊かな海づくりに向けた取組を発信できるような構成とします。

■ステージイベントエリア

式典行事や海上歓迎・放流行事の映像中継により各行事との一体感を醸成するとともに、歴史ある伝統芸能や水産に関するトークショーなど、多くの人に楽しんでいただける構成とします。

■ふれあい体験エリア

タッチングプールや小型水槽の設置など、海の生き物と触れ合えるコーナーやクロノリの食べ比べ、ちりめんモンスターを探す体験などを通じて、多くの人に海の豊かさを感じていただける構成とします。

■物産販売エリア

三重県産品等を広く販売し、本県の多様な食文化や食材をアピールするとともに堪能していただけるような構成とします。



過去大会の関連行事の実施状況

II. 大会計画

6. その他の行事

(1) 絵画・習字優秀作品御覧

■内容

全国豊かな海づくり大会を記念して、県内の児童・生徒を対象に絵画や作品コンクールを実施し、優秀作品を御覧いただきます。

進 行	内容・主演者等
御 着	御先導:三重県知事
絵画・習字優秀作品御覧	御説明:三重県教育長 受賞者:三重県知事賞(絵画部門・習字部門)
御 発	御先導:三重県知事

※内容は、先催県の例を参考に記載したものであり、関係機関等と協議の上、調整・決定します。

II. 大会計画

(2) 歓迎レセプション

■内容

大会前日に歓迎レセプションを開催し、本県の多種多様な農林水産物を使用した「食」で、心のこもった“おもてなし”を実施します。

進 行	内容・主演者等
御着	御先導:三重県知事
開宴のことば	三重県副知事
主催者あいさつ	三重県知事
歓迎のことば	開催地代表市町長
乾杯	全国豊かな海づくり大会会長(衆議院議長)
御懇談	
御退席	御先導:三重県知事
歓談	
終宴のことば	三重県議会議長

II. 大会計画

7. 大会運営計画

■基本的な考え方

- ・すべての来場者の安全を確保するとともに、心のこもったおもてなしを行います。
- ・円滑な大会運営を行うため、実行委員会に所属する組織だけでなく、様々な主体と連携します。
- ・障がい者、高齢者への配慮を欠かさない大会運営を行います。
- ・イベント等の開催にあたっては、環境への負荷を可能な限り低減できる手法を検討します。

■緊急時対応

- ・警察、海上保安庁、消防、医療機関等の関係機関、関係団体との連携を密にし、事故防止や非常時の迅速な対応に努めます。
- ・臨海部を主体として開催する大会となることから、悪天候や地震などの災害への対応として、情報収集と避難誘導や大会行事の実施等の判断を迅速かつ的確に行える体制づくりを行います。

II. 大会計画

8. 荒天時等計画

■基本的な考え方

- ・台風による荒天時や地震、津波等の災害、火災、その他の突発的事案が発生した場合には、大会行事の開催可否を決定するため、判定会議を開催します。
- ・判定会議は、気象状況や災害、突発的事案の情報収集、整理を行い、専門家の意見を踏まえた上で、実施の可否を判断することとします。
なお、大会行事の実施、変更、中止の判断基準は、大会実施計画で詳細を定めます。

■荒天時の実施内容

- ・判定会議において、荒天や災害、その他の突発的事案により海上歓迎行事の実施が困難であると判断した場合には、荒天時計画(A)に変更し、行事を実施します。
- ・さらに、放流行事の実施も困難であると判断した場合には、荒天時計画(B)に変更し、式典行事を実施します。
- ・なお、台風や地震、津波等により、招待者や来場者の会場への移動に危険が伴うと判断した場合には、全ての行事を中止します。

行事名	荒天時計画(A)	荒天時計画(B)
式典行事	計画どおり実施	計画どおり実施
海上歓迎行事	中止	中止
放流行事	計画どおり実施	中止

※雨量、風速、波高、視程の気象条件を判断基準とします。

Ⅲ. 気運醸成・情報発信計画

1. 気運醸成に向けた取組

■基本的な考え方

大会の開催に向けて、1年前プレイベントをはじめとする行事の開催を通じて、全県的な気運醸成を図るとともに、大会の基本方針を達成できるよう戦略的に情報発信に取り組みます。

■気運醸成に向けた取組

(1) 持続的な水産業の次世代への継承

○大会記念リレー放流

県内各地の海面及び内水面において、児童などと稚魚の放流を実施するとともに、子ども達が楽しく学べる水産教室などを実施します。

《期間》 令和6年6月～令和7年10月頃 《会場》 県内全域

(2) 豊かな海や河川の恵みを楽しむための水域環境の保全

○各種イベント等と連携した大会PR活動

漁協や市町、環境団体等が開催する海や魚、自然環境に関連したイベントと連携し、海の豊かさや自然を守ることの大切さをPRするキャラバンを実施します。

《期間》 通年 《会場》 県内全域

(3) 多彩な魅力あふれる「美し国みえ」の発信

○魚食普及活動

学校給食や料理教室、レシピコンテストなどを通じて、本県の豊かな水産物を身近に感じてもらいながら、水産物の消費拡大や水産資源の保護の重要性の浸透を図ります。

《期間》 通年 《会場》 県内全域

○美し国みえフォトコンテストの開催

三重の漁村やそこで働く人々、多彩な水産物など、豊かな海を連想される日常の感動を捉えたフォトコンテストを実施するとともに、応募作品を大会PRに活用します。

《期間》 令和6年11月頃～令和7年1月頃 《対象》 県内全域

Ⅲ. 気運醸成・情報発信計画

(4) (1)～(3)を包括的に啓発していく取組

○1年前プレイベント・関連イベント

『第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～』1年前プレイベントでは、「海上歓迎・放流行事」の会場となる「宿田曾漁港」において、大会本番に向けた課題と対策を検討し、得られた内容を大会計画に反映させるため、漁船等の海上歓迎パレードや放流行事を実施します。

合わせて、地元イベントと連携し、多くの県民が楽しめる関連行事を開催し、大会の気運醸成を図ります。

《日 時》 令和6年11月4日(月・休)

《場 所》 宿田曾漁港

- 《内容(想定)》
- ① 式典
 - ② 漁船等による海上歓迎パレード
 - ③ 稚魚等の放流
 - ④ 企画展示、体験コーナー、ステージイベントなど

(5) 協賛事業

○海づくり大会協賛行事の募集

大会の成功に向けて、基本理念に賛同していただける企業等から協賛金(物品を含む)を募集するとともに、大会の周知や気運醸成を目的に、イベントや清掃活動、水産物消費拡大などの活動を協賛行事として募集します。

《期間》 通年

《対象》 県内全域

(6) その他

○作文・絵画・習字コンクールの開催

豊かな海づくり大会推進委員会との共催により、県内の児童・生徒を対象に、作文・絵画・習字のコンクールを行います。

《期間》 令和7年

《対象》 県内全域

○子ども用法被の作成

子ども用法被を作成し、各種PRイベント等において活用します。

【子ども用法被デザイン】



前 面

背 面

Ⅲ. 気運醸成・情報発信計画

2. 情報発信の取組

■基本的な考え方

大会テーマ、大会マスコットを活用しながら、大会関連情報について各種媒体を通じて、積極的かつ効果的な情報発信を展開します。

■情報発信事業

○大会テーマ、大会マスコット等を活用したPR

公募により決定する大会テーマの周知を図るとともに、大会マスコットキャラクター「とこまる」を活用したノベルティグッズ等を作成しPRを行います。

○大会専用ホームページの作成

大会に関する情報を県内外へ効果的に発信するためのプラットフォームとして、大会専用ホームページを作成します。

○印刷物による広報

大会公式ポスターやリーフレットの作成、県・市町等の広報誌の活用など、各種印刷物を活用した広報活動を展開します。

○多様なメディアによる広報

報道機関への情報提供やインターネット等の多様なメディアの活用により、大会に関する情報を迅速かつ広域的に発信します。

○「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～」への参加

大分県で開催される「第43回全国豊かな海づくり大会(令和6年11月10日)」に参加し、大会招待者などへの次期開催の周知を図るとともに、本県の水産業の魅力を発信します。

IV. 実施スケジュール

1. 大会開催に向けた全体スケジュール

年度	月	会議・実施本部設置等	気運醸成・情報発信
令和5年度	1		
	2		
	3	実行委員会臨時総会(事業計画承認等)	
令和6年度	4		
	5		
	6		
	7	実行委員会総会(基本計画策定等)	
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3	実行委員会総会(大会実施計画策定)	
令和7年度	4		
	5		
	6		
	7		
	8	1か月前総合リハーサル	
	9	前日総合リハーサル	
	10	第44回全国豊かな海づくり大会 ～美し国みえ大会～ (令和7年秋季のいずれかの日の土日)	
	11		
	12		
	1		
	2		
	3	実行委員会総会(解散総会)	大会実績報告書作成

第44回全国豊かな海づくり大会

～美し国みえ大会～

基本計画

第44回全国豊かな海づくり大会 三重県実行委員会事務局

〒514-0004 津市栄町1丁目954番地(栄町庁舎5階)

TEL 059-224-2162 FAX 059-224-2059

E-mail umidkr@pref.mie.lg.jp